

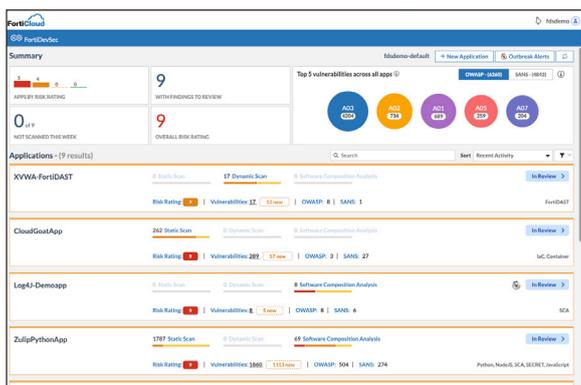
FortiDevSec

提供形態：



ホスティング

CI / CD パイプラインでの継続的なアプリケーションセキュリティテスト



ソフトウェアアプリケーションがあらゆる場所に存在するようになり、ビジネスソフトウェアアプリケーションを迅速に開発して展開する能力が、あらゆるビジネスの成功を左右するようになりました。

市場投入までの時間が極めて重要であるため、従来のウォーターフォール方式のアプリケーション開発では対応できなくなりました。ウォー

ターフォール方式では、アプリケーションの変更は数ヶ月に1度程度で、開発チームは、前のステップが正常に完了した場合にのみ、次の開発やテストフェーズに進むので、市場投入までの時間が長くなるという課題があります。

アプリケーションの開発と展開を迅速に進めるために、多くのアプリケーション開発チームがアジャイルと DevOps の方法論を採用するようになりました。アジャイルモデルでは、開発とテストの工程が同時進行し、継続的に繰り返されます。アプリケーションの変更はクラウドに展開されることも多く、開発、機能、AppSec（アプリケーションセキュリティ）のテストを担当するチームは、緊密なコラボレーションとコミュニケーションを迅速なターンアラウンドタイムで実行する必要があります。このような状況から、アプリケーションの構築とクラウドへの展開のワークフローの自動化が必要とされるようになり、結果として、CI / CD（継続的インテグレーション / 継続的デリバリ）ツールを使用してこの自動化を可能にする DevOps が大きな役割を果たすようになりました。

AppSec（アプリケーションセキュリティ）テストも自動化することで、この CI / CD パラダイムで動作するようにし、開発サイクルの初期段階に組み込むようにすることが求められています（一般的にシフトレフトと呼ばれます）。ところが、多くの AppSec テスト製品は、AppSec の専門知識が少ない開発者や DevOps のユーザーエクスペリエンスをサポートするようにネイティブに構築されていないため、製品が効果的に使用されているとは言えません。端的に言えば、DevSecOps は実現していないということです。

DevSecOps は、開発（Development）、セキュリティ（Security）、運用（Operations）の略称で、ソフトウェア開発ライフサイクルの初期段階である設計から、統合、テスト、デプロイ、ソフトウェアデリバリまでのあらゆる段階でセキュリティの統合を自動化するものです。

主なメリット

- DevSecOps の自動化：** アプリケーションセキュリティを DevOps プロセスにネイティブに組み込むため、アプリケーションセキュリティの十分な専門知識は不要
- 攻撃対象領域全体の可視化：** ソースコード、オープンソースやサードパーティのコンポーネント、コンテナイメージ、IaC、ランタイム攻撃ベクトルなどの Web アプリケーションのあらゆるセキュリティリスクを把握
- 統合ダッシュボード：** 使いやすいポータルで、さまざまなタイプのスキャンで見つかったセキュリティリスクを正規化し、集約し、一元管理が可能
- セキュリティ問題の最適な優先度判断：** あらゆるタイプのスキャンがインテリジェントに分析され、セキュリティの問題をランク付けして表示。OWASP Top 10 および CWE/SANS Top 25 の脆弱性をフィルタリングして、優先順位を設定
- 利用と管理の簡素化：** セットアップと管理のオーバーヘッドを排除でき、スキャナのセットアップやアップデートも必要なく、最新のスキャナが自動的にセットアップされる。すべてのスキャンの構成が統一され、サイロ化されたプラグインは不要

ハイライト

革新的な製品

AppSec のテストはさらに、細かく断片化されています。アプリケーションの脆弱性をすべて把握するために実行する必要がある AppSec スキャンには多くのタイプがあり、これらは通常、異なる製品によって提供されています。複数の製品で構成されるソリューションに起因する断片化が、DevSecOps による AppSec の実現を阻害します。

DevSecOps が DNA に組み込まれた革新的な AppSec 製品、すなわち、セキュリティの専門知識を必要とすることなく、開発者や DevOps が簡単に利用でき、SAST、DAST、SCA、Secret、コンテナイメージ、IaC (Infrastructure-as-Code) ファイルなどのあらゆるタイプの AppSec スキャンをサポートする包括的な製品が必要とされています。

フォーティネットの DevSecOps 製品である FortiDevSec は、ソフトウェア開発者と DevOps に特化してゼロから構築された、クラウド / SaaS ベースの継続的なアプリケーションセキュリティテ

最新のアプリ開発方式に対応する シンプルなセキュリティ

最新のアプリケーション開発は、アジャイル方法論による迅速なアプリケーション開発、クラウドネイティブ、マイクロサービスやコンテナベースのアーキテクチャの使用、CI / CD の使用によるビルドとデプロイの自動化の組み合わせによって実現し、そのためには、CI / CD におけるアプリケーションセキュリティテストを自動化する必要があります。

FortiDevSec は、開発者と DevOps の継続的なアプリケーションセキュリティテストのオーケストレーションと自動化により、これらのテストをアプリケーション CI / CD DevOps ライフサイクルに直接組み込みます。数行のコードを CI / CD にコピーするだけで、AppSec の専門知識を必要とすることなく、DevOps に FortiDevSec を統合でき、AppSec を DevOps と同じ速さで進められるようになります。FortiDevSec は、主要な CI / CD ツール、言語、フレームワークをすべてサポートしています。

FortiDevSec を利用することで、統一された yaml 構成により、すべてのタイプのアプリケーションセキュリティスキャンに単一の自動化レイヤーが DevOps に提供されます。DevOps に複数のスキャナに対応する複数のプラグインを組み込む必要はありません。スキャナは Docker イメージで提供され、常に最新バージョンに更新されるため、全体として容易な管理が実現します。

ストを提供します。FortiDevSec は、アプリケーションのセキュリティ脆弱性を開発ライフサイクルの初期段階で発見することで、アプリケーションセキュリティのシフトレフトアーキテクチャを可能にし、アプリケーションの本番稼働前に開発者が問題を迅速に発見して修正できるようにします。

FortiDevSec は、アプリケーションの DevOps CI / CD パイプラインにネイティブに統合、デプロイされ、ソースコード、オープンソース / サードパーティのライブラリ、シークレット、コンテナイメージ、IaC ファイルなど、脆弱性やエクスプロイトのスキャンを含む包括的なアプリケーションスキャンを提供し、セキュリティの問題をまとめて、使いやすい Web ポータルで提示します。インテリジェントなノイズリダクションにより、開発者は、過剰な負担を回避しつつ、最も重要な脆弱性に優先的に取り組むことができます。

The screenshot shows the Jenkins configuration page for adding a build step. The left sidebar lists various CI/CD tools: Jenkins, Travis, Circle CI, Github Action, Bamboo, Azure DevOps, Gitlab CI, AWS CodePipeline, GCP Cloud Build, and Drone CI. The main content area is titled 'Commands to configure for SAST and DAST scan accordingly in your Jenkins | Configure | Add build step | Execute Shell'. It contains two sections: 'SAST Scan:' and 'DAST Scan:'. Each section shows a terminal command block for running a Docker container to execute the scan. The SAST command is: `env | grep -E "JENKINS_HOME|BUILD_ID|GIT_BRANCH|GIT_COMMIT" > /tmp/env; docker pull registry.fortidevsec.forticloud.com/fdevsec_sast:latest; docker run --rm --env-file /tmp/env --mount type=bind,source=$PWD,target=/scan registry.fortidevsec.forticloud.com/fdevsec_sast:latest`. The DAST command is: `env | grep -E "JENKINS_HOME|BUILD_ID|GIT_BRANCH|GIT_COMMIT" > /tmp/env; docker pull registry.fortidevsec.forticloud.com/fdevsec_dast:latest; docker run --rm --env-file /tmp/env --mount type=bind,source=$PWD,target=/scan registry.fortidevsec.forticloud.com/fdevsec_dast:latest`.

ハイライト

包括的な脆弱性管理

アプリケーションを複数の攻撃ベクトルから保護する必要があり、そのためには多くのタイプのスキャナを使用してセキュリティテストを実行する必要があります。

SAST（静的（またはソース）コードテスト）はアプリケーションそのもののソースコードをスキャンし、SCA / OSS はアプリケーションに含まれるサードパーティライブラリ（通常はオープンソースライブラリ）をスキャンし、Secrets はコード内のオープンパスワードテキストをスキャンし、DAST（動的テスト）はフロントエンド経由で Web アプリケーションを分析し、攻撃をシミュレーションして脆弱性を発見します。コンテナスキャンは、ビルド時に作成されるコンテナイメージに存在する脆弱性を発見します。IaC スキャンは、インフラストラクチャの構成ミスを作成前の段階で発見します。

FortiDevSec には、上記のすべてのタイプのスキャンが含まれているため、包括的な脆弱性管理が可能になります。DAST スキャンのみ、フォーティネットの別の製品である FortiDAST から提供されますが、FortiDevSec は FortiDAST にシームレスに統合されているため、FortiDevSec に FortiDAST が含まれています。

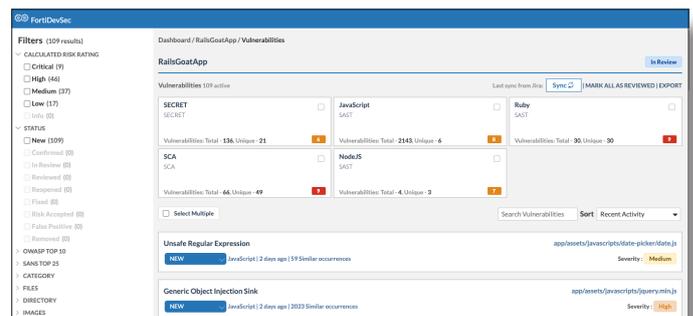
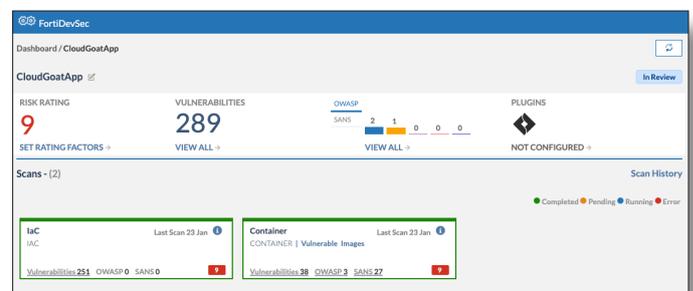
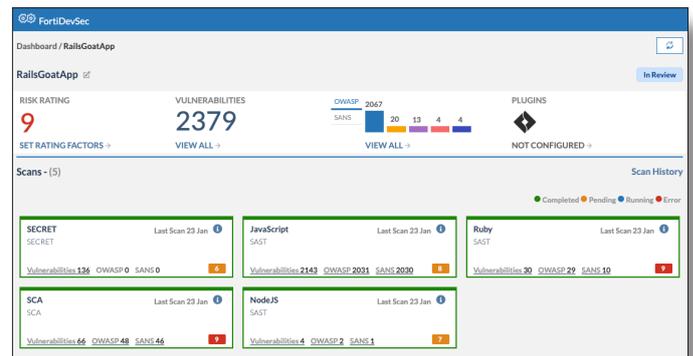
FortiDevSec は、各アプリケーションを分析し、言語やフレームワークなどの属性に基づき、そのアプリケーションに必要に関連性のあるスキャンのタイプを自動的に選択します。スキャナは、FortiDevSec エージェントの Docker イメージとして自動的にダウンロードまたは更新されます。

統合ダッシュボード

FortiDevSec には、ユーザーがログインして利用できる使いやすいポータルが提供されており、すべてのアプリケーション、すべてのスキャンタイプ、すべての問題をこのポータルで確認できます。複数の異なる断片化されたスキャナごとに複数のポータルを使用する必要はありません。

スキャン結果が最初に複数のスキャンタイプで正規化され、リスク評価、リスクカテゴリ、記述もすべて正規化されます。結果をさらに集計し、さまざまなフィルターを指定して表示することで、最も重要な項目を優先的に修正できるようになります。OWASP Top 10 と CWE/SANS Top 25 の脆弱性が強調表示され、ユーザーが脆弱性をフィルタリングして優先順位を設定できます。

報告される問題があまりに多いと、ほとんどの開発者は圧倒されてしまうものです。そのような状況を軽減するため、FortiDevSec は、複数のスキャンの結果をインテリジェントに相関付け、それに応じてリスク評価を判断します。結果として、報告される問題のノイズリダクションが可能になり、開発者は最も重要な問題の修正に集中できるようになります。



オーダー情報

FortiDevSecOps は、ユーザー数、すなわち開発者数に基づくライセンスをご利用いただけます。

この数には、FortiDevSec で顧客向けにセキュリティテストを実行するすべてのアプリケーションに関わるすべての開発者が含まれます。通常、これらの開発者にはアカウントが割り当てられ、アプリケーションのソースコードリポジトリ (GitHub など) にコードをチェックインします。

最初に、FortiDevSec がスキャンしたアプリケーションのレポジトリにコードをチェックイン / コミットした開発者の数をカウントします。次に、FortiDevSec がスキャンしたすべてのアプリケーションでこれを実行することで、カスタマーライセンスレベルでの合計カウントを取得します。もちろん、同じ開発者が複数のアプリケーションを開発している場合に二重にカウントされることはありません。

この開発 / ユーザーの数は、FortiDevSec ポータルにログインするユーザー数と同じではありません。ほとんどの場合、後者はソースコードレポジトリを使用して算出される開発者の合計数より少ないはずで

FortiDevSec は現在、最大 5 ユーザーの SKU を提供しています。この SKU を積み上げ方式で利用することで、利用できるユーザーを増やすことができます。これらのユーザーがアクセスしてオンボーディングする (直接的に関わる) アプリケーションの数に制限はなく、FortiDevSec での SAST、Secrets、コンテナ、IaC のスキャンの数にも制限はありません。

スキャンするアプリケーションの数に関する制限は、DAST スキャンの制限だけです。DAST スキャンは、FortiDAST と呼ばれる別の製品から内部で提供されます。5 ユーザーの FortiDevSec ライセンスに、DAST の 5 アプリケーションスキャンが付属していますが、DAST スキャンが必要なアプリケーションが 5 を超える場合は、アドオン SKU / ライセンスを別途購入できます。

PRODUCT	SKU	DESCRIPTION
FortiDevSec	FC1-10-DEVSC-513-01-12	FortiDevSec - Standard functionality Tier - Unlimited scans and unlimited apps for all scanners (SAST, SCA/OSS, Containers, IaC and Secrets) for up to 5 developer users (all developers working on the target apps to be scanned are counted). This also includes DAST or WebApp Vulnerability scanning provided by FortiDAST but limited to 5 apps. Use add on SKU to add more apps for DAST. - Annual Subscription. FortiCare support included.
FortiDAST add-on to FortiDevSec	FC1-10-DEVSC-216-02-12	Add on FortiDAST web vulnerability scanning / DAST functionality to FortiDevSec. Both products are to be used in SAAS version. This SKU provides access for scanning 5 apps using FortiDAST. This is on top of 5 apps for DAST that get included by default for each FortiDevSec license.

FORTINET

フォーティネットジャパン合同会社

〒106-0032

東京都港区六本木 7-7-7 Tri-Seven Roppongi 9 階

www.fortinet.com/jp/contact

お問い合わせ